

「平成25年度主要農作物品種審査会(麦類)」会議録

1 日 時：平成25年9月3日(火)

2 場 所：宮城県行政庁舎 9階 第一会議室

3 出席者

(1) 審査会委員：國分牧衛，中鉢充，布田順一，高澤まき子，秋山耕，加藤房子，丸山恵史，高橋正道，水多昭雄

(2) 審査会幹事：高橋 芳浩，佐野 幸一，小島俊夫，千葉芳則，日塔明広

4 会議録

(午後2時00分開始)

○ 事務局(高橋班長)

ただ今より，主要農作物品種審査会を開催します。
開会のあいさつを國分会長よりお願いいたします。

○ 國分会長

(あいさつ)

開会にあたりまして，一言挨拶申し上げます。

○ 國分会長

あいさつ

主要農作物品種審査会は，秋と春と2回開いております。一応秋の会と言う事で今回は麦類の品種について御審議いただきます。小麦についてはパン用の品種も出てきているようです。大麦についてはいろいろな用途が出てきているようで麦茶用とか麦ごはん用でしょうか，需要側の根強いものがあるようですが，生産を見ると1000ha強，弱ということで，震災後はやや減っている状況のようです。県の需要他県の需要に答えるためには，いろいろ取り組む必要があるわけですが，一つは，いい品種を導入していくことが重要であります。もちろんいい品種はあるわけですが，より質のいいもの，それから赤かび病など病気に強いものなど，品種に求められる特性もだんだんレベルアップしていかなければなりません。ですからいつまでも古い品種，より総合的に品質，栽培特性が評価されたものが必要になってくるわけです。県でも努力されてますが，この奨励品種に供する品種について，いろいろな立場の方が本日出席されていますので，それぞれの立場から忌憚のないご意見をいただければと思います。本日はよろしく願いいたします。

事務局(高橋班長)委員の紹介

ご挨拶いただきました。会長の東北大学大学院農学研究科國分先生です。副会長の全国農業協同組合宮城県本部米穀部長の中鉢様です。同じく副会長の社団法人宮城県農業公社の常務理事の布田委員でございます。続きまして白百合女子大学の高澤先生です。農業会議副会長秋山委員でございます。宮城県生活協同組合連合会加藤委員でございます。東北農政局生産部丸山部長が欠席ですので吉田次長様に代理で出席いただいております。農林水産部高技監兼次長の高橋委員でございます。宮城県古川農業試験場水多委員でございます。宮城大学食産業学部の斎藤委員は欠席でございます。

審査会場条例第5条第2項により，審査会が成立することをお知らせいたします。

○ 國分会長：資料の1ページについて，知事からの諮問が示されております。1つはナンブコムギの廃止についてと奨励品種決定調査に供する品種についてです。これに基づいて審議に入りたいと思います。まず(1)から事務局のご説明をお願いします。

- 事務局（今関）
 - （１）小麦奨励品種「ナンブコムギ」を廃止することについて資料１により説明
- 分会長：これはかなり古い品種だと思いますが、宮城県は１０年ほどになりますでしょうか、現在は数haということです。栽培が少ないということで廃止することですが、種子は他から手当てできるということで、あおばの恋やゆきちからにかわっているということで、
- 加藤委員：ナンブコムギの作付面積が減ったという事はナンブ小麦の生産者がゆきちからやあおばの恋に生産を変更したという理解でいいのでしょうか。
- 事務局：ナンブコムギの作付は、登米地域管内が多かったということで、ゆきちからとかあおばの恋に転換しているという認識です。
- 高澤委員：作付面積が減少した理由ですが、耐病性、加工性とかどうなのでしょう。
- 事務局：ナンブコムギはパン用やめん用に使われていますが、パン適正の高いゆきちから出てきたことでこちらに置き換わっているのではと思われます。岩手県でもナンブコムギがかなり多かったのですが、ゆきちからにかわっていると聞いています。
- 國分会長：品質の面なのか、栽培的性の部分問題があるのかわかりますか。
- 事務局：ナンブコムギは、めん用の軟質系統の品種で製パン適正があまりよくないのですが、ゆきちからは製パン適正高い品種です。赤かび病は、ナンブコムギの方が強いのですが、加工適性を重視して総合的に評価されています。
- 國分会長：ナンブコムギのパンは、やや高いのですが結構おいしいです。輸入よりも少ししっとりしていてそれなりにおいしいが、ふっくらしたパンという部分ではゆきちからの方が優れるのでしょうか。
- 國分会長：他にいかがですが。比較的新しいあおばの恋の評判はいかがですか。
- 事務局：生協でも新たに開発したあおばの恋を使っためん等を使っていただいております、地元では地域の粉を使ったものということで麺やおかしなどにも使っているようだ。
- 國分会長：日本の小麦の品種はまだまだ改良すべき点があって、耐病性ももう１段、２段改良すべきだが需要に対応した面では、新しい品種は対応しつつあるということでしょうか。他にいかがですか。それでは、このナンブコムギを廃止することについては、皆さん御同意が得られたということよろしいでしょうか。
- 続きまして、（２）平成２５年度奨励品種決定調査に供する品種について、事務局よりお願いします。
- 日塔幹事
 - （資料により、平成２４年度 奨励品種決定調査成績概要及び平成２５年度奨励品種決定調査に供する品種（麦類）について説明。）
- 國分会長：ただいまの説明について御質問、ご意見ございましたらよろしく願います。

- 高澤委員：大麦，小麦一括してご説明頂きましたが，まず大麦からいかがでしょうか。有望視している品種もあるようですが。いかがでしょうか
炊いたときに黒くなりにくいという事ですね。私は少し褐変した方がと思ってしまふのですが，一般的には，白いほうがよいということですね。
- 事務局（日塔部長）
先日実需の方が試験場にお見えになって，東山皮113号に期待しているということで，情報交換したのですが，炊飯後に色が変わるのが消費者の気にしているということだったので，劣化しにくいところを高く評価してぜひ使いたいと話を伺っております。本年作付して，品質などについても評価していただければと考えております。
- 國分
アントシアニンが低下しているということで，機能性の部分で低下することはないのでしょうか。
- 日塔幹事：アントシアニンは，強い抗酸化作用があるので，見た目だけではない効果もあるようですが，買っていただける麦をということで考えております。
- 國分会長；育成地ではやや低収量となっているが，宮城では収量が多いという事ですね。栽培環境が違ふと能力が発揮されるということでしょうかね。これは，一穂粒数が多いタイプという事でしょうか。
- 日塔幹事：穂の長さも長いので，そういうタイプですね。
- 他にいかがでしょうか。小麦の方はいかがでしょうか。小麦東北229号，が有望という事で，赤かびがゆきちからより強く，収量も良いということですが。
- 日塔幹事：一番期待しているところは赤かび病で，ゆきちからはやや弱，それに比べて中となっております。奨励品種蹴って調査とは別に赤かびの調査をしていますが，まだ1年目ではっきりしていませんが，ゆきちからの赤かび防除は生産現場で3回やっているのだから，防除回数を減らす品種を期待しています。
- 國分会長：そこは大きなセールスポイントになりますね。東山46号も製麺適正，感応評価も良いようですね，ASW並によく，シラネに比べても良いようですが，何がシラネコムギより感応評価が優れているのか，もしわかれればお願いします。
- 事務局内海
シラネコムギに比べ特に特徴的なのは，麺の色です，20点満点で，シラネコムギが12.2のところ，14.と高く食感や食味もシラネコムギよりも良い評価を得ています。
- 國分会長：色は少し黄色かかった白とかそういう色でしょうか。
- 事務局（内海）：見た目の評価になりますが，明度が高く白味が強いという特徴があります。
- 國分会長：明るい感じですか，黄色味はあまり関係ないですか。やや黄色クリーム色はプラスにはなっていないませんか。
- 事務局：シラネコムギはくすんだ色なので，それよりも明るいことが特徴です。
- 國分会長：コシも優れますか。色だけでポイントが高いのでしょうかいん

- 事務局：評価項目が、色、食感食味が高く総合的に優れる特徴となっています。
- 國分会長：昔は、ASW並は難しいといわれていましたが、これをみると優良なものもあって、少なくとも麵の適正については、ASW並であるということで心強く感じます。
- 國分会長：パンについても高い評価ですね。80に対78ですから。
- 高澤委員：感応評価について、いろいろお聞きしたいのですが、まず何人でどのようながされたのか、色が黄色っぽいのはタンパク質が多いからなのか、パンの検査項目はどういったものなのかを教えてください。
- 事務局（内海）10名で、パンの評価は、100満点で焼き色10点。形均整が5点、品質皮の質が5点、すだちが10点内色相が10点、香が10点、味25、食感15です。229号はゆきちから比べた焼き色、すだち、食味、食感でも優れた評価になっています。
- 國分会長：パネラーはどのような方なのか。
- 事務局（内海）：阿部製粉への委託調査の結果であり、阿部製粉で選択したパネラーである。どのようなひとは、情報が無いので、後ほど詳しく調べたいと思います。小麦の育成地一括して阿部製粉に委託している。
- 高澤委員：食感でもちもち感とかぼそぼそするとか、詳しい評価はしているのでしょうか。
- 事務局：食感のなかで一括して行われています。今年産の小麦についても、同様に評価をしていく予定なので、詳細を聞きたいと思います。
- 加藤委員：登米、美里で赤かびに強い評価で、大河原、石巻で同程度になっていますが、作付地の影響なのか、土地柄なのか、栽培方法で出方が違うのか教えてほしい。
- 事務局（内海）赤かびかび病の防除回数の影響があると思います。大河原は1回、石巻、登米は2回、美里は3回の防除回数でした。2回の防除が行われていれば、229号方がゆきちからより強いという評価になるかと考えております。
- 國分会長：1回防除では差が出ない3回やると差が出るという事でしょうか。遺伝的に強ければ、回数が少ないと高くなるように思ったのですが
- 日塔幹事：赤かびに関しては、防除の適期が開花した時期でして、防除適期のタイミングが難しいので、回数もありますが、タイミングの部分もあるかと思っています。気象条件の影響もあるので試験自体も難しいと思います。今後データを整理していきたいと思っています。
- 國分会長：理想的には防除しなくても出ないことですが、いまのところはないので、1ランクでも今の品種よりよければということでしょうか。少なくとも大麦、小麦は、世界的レベルに近づいていると思います。必ずしもカナダのパン用、オーストラリアのめん用に合わせなくとも、日本独自ものでもいいのですが、消費者が受け入れられるもので選択する必要があります。今後期待がもてることではないかと思っています。

- 秋山委員：麦の作付面積減っているが、今年の見込みは昨年よりも増やすような感じです。麦だけでは経営が成り立たないのはわかっていることで、古川農業試験場としても麦を作付するなら、その間に何を作付したら経営が成り立つのか、そこまで考えてほしいと思います。そうしないと面積が減るのは明確で、せっかくいい品種がでてなかなか農家に浸透しないのは、これだけでは成り立たないという問題があるからです。そこまで踏み込んだ研究をしていただきたいと思います。
- 日塔幹事：水田輪作体系の確立ということで、取り組んでいてすでにご紹介している。今は麦の収穫時期が、遅いので大豆については晩播狭畦栽培で麦あと大豆の栽培方法の確立に取り組んでいます。稲、麦、大豆の2年3作体系を試験しています。
- 秋山委員：もう少し出穂が早い品種があれば、梅雨前に収穫できるような品種も取り組んでいただければと思います。ぜひお願いします。
- 日塔幹事：栽培方法で早めるのは難しいですが、要望品種で出穂の早い品種を導入していくようにします。
- 國分会長：出穂期は早いに限るが、早すぎると冷害や霜害がでるので極端に早くはできませんよね。
- 水多委員：試験場でも、水稻を直播、乳苗等の導入により、大規模でコストを下げて担い手が取り組めるような技術を試験していますし、大豆、麦を組み合わせた2年3作での体系を昨年より国の試験の大規模実証をしております。
- 他にご質問ございますか。特に御異論ございませんでしたので、諮問内容については妥当であるということ答申したいとおもいますがよろしいでしょうか。
- 國分会長：以上をもちまして本日の審査会の議事は終了となりますので、これで議長の任を解かせていただきます。御審議ありがとうございました。
- 事務局(阪本総括)：ありがとうございました。それでは、事務局より次回の審査会についてご連絡させていただきます。当審査会につきましては、年2回の開催させていただいておりますが、次回は9月が開催の予定となっております。内容といたしましては、平成26度の奨励品種決定調査に供する水稻・大豆について御審議を賜りたいと考えております。具体の日程につきましては、開催時期が決まりしだい御連絡を申し上げますので、委員の皆様には御出席のほど、よろしく申し上げます。